

「読書フェスタ」期間中は、県内あちこちで読書に親しむイベントが開催されました。今回は、県主催イベントの様子をお知らせします。



高校生ビブリオバトル秋田県大会

チャンプ本は『伊勢物語』に決定!!

おすすめの本の魅力を紹介し合い、一番読みたくなった本に投票してチャンプ本を決めるビブリオバトル。11月3日(木)、県生涯学習センターで開催した秋田県大会において、2代目県チャンプ本が決定しました。

県内5地区大会で勝ち抜いてきたのは、純文学、SF小説、ライトノベル、古典などの10冊。始めは、二組に分かれて予選を行い、それぞれの組から決勝に進む2冊を投票で決めました。

決勝には次の4冊が進みました。

- 「君が電話をかけていた場所」 (三秋縋・著)
- 「新釈 走れメロス他四編」 (森見登美彦・著)
- 「Aコース」 (山田悠介・著)
- 「伊勢物語」(『21世紀版少年少女古典文学館 竹取物語 伊勢物語』) (俵万智・著)

決勝では、秋田南高等学校1年能美寧々さんが、「恋愛に積極的になりたい男子に、バイブルとしてお勧めしたい」と紹介した『伊勢物語』がチャンプ本に選ばれました。また、大館桂桜高等学校3年阿部樹さんが紹介した『君が電話をかけていた場所』が準チャンプ本となりました。

観戦した高校生からは、「同じ高校生なのにすばらしいプレゼンをしていて、すごいと思った。身振り手振りを付けて分かりやすかった。表現力を見習いたいと思ったし、読書してみたいと思った」という感想が寄せられました。

なお、能美さんは、来年1月8日、東京で行われる全国大会に秋田県代表として出場する予定です。



高校生のプレゼンに引き込まれる観戦者



熱い思いを語る能美さん



県内5地区大会を勝ち上がってきた10名のバトル(発表者)たち

「読書絵はがきコンクール」

応募総数722作品から入賞者表彰



映し出された自分の作品の前での受賞

本を読んで得た感動を、絵と文章で表現する「読書絵はがきコンクール」に、今年度もたくさんの応募がありました。図書室内には掲示しきれず、館内至る所に張り出したところ、たくさんの親子連れが見に来てくれました。

11月3日(木)、「みらいあ児童文化フェスティバル」において、教育長賞、児童会館館長賞、優秀賞を受賞した幼児・児童・生徒20名

に、賞状が手渡されました。

表彰の際、ステージ上のスクリーンにそれぞれの作品が映し出されると、会場からは一斉に「すごいな」「うまい」という声が上がりました。



賞状を手にした受賞者のみなさん

石川達三の世界に浸る「ふるさとと文学 2016」大盛況



第3部 座談「石川達三の秋田～読書が人をつくる」 左から吉岡忍(作家)氏、佐竹敬久知事、浅田次郎(作家)氏、壇蜜(俳優)氏、西木正明(作家)氏

10月29日(土)、秋田市の県児童会館けやきシアターで、読書イベント「ふるさとと文学2016『石川達三の秋田』」が開かれました。約740人が、秋田県出身の石川達三の人生について、理解を深めたり作品を味わったりして、文学の世界に浸りました。

まず、第1部映像「激流に浮かぶ小舟～石川達三の人・作品・世界」では、達三の生涯を振り返りました。活動写真弁士片岡一郎氏の熱演と音楽家森ミドリ氏のチェレスタ演奏が、映像と相まって、参加者たちを魅了しました。

第2部は短編「あんどれの母」の朗読でした。横手市出身の壇蜜氏が、感情を抑えた読み方で、息子を思う母の心情を表現しました。



朗読する壇蜜氏

第3部は座談会。登壇した5名は、石川達三文学の背景や社会的位置付け、秋田県や東北の風土と文学の関わり、自らの読書体験などについて語りました。読書条例や県民読書の日を制定している秋田県読書活動推進本部長でもある佐竹知事は、「本を読めば読むほど自分の考えをしっかりともてるようになる」と、読書の意義を語りました。

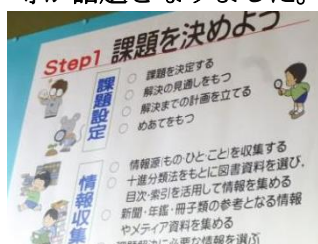
また、このイベントに先立ち、第3回ふるさと秋田文学賞の表彰が行われ、次の4名が受賞しました。

- ふるさと秋田文学賞《小説の部》
岩井圭吾 氏(藤沢市)『たちきる』
- ふるさと秋田文学賞佳作《小説の部》
森川瑠美子 氏(横浜市)『直武、りんどうの恋』
- ふるさと秋田文学賞《随筆・紀行文の部》
石原敏子 氏(大湯村)『山男と夫の贈物』
- ふるさと秋田文学賞佳作《随筆・紀行文の部》
遠藤美弥子 氏(秋田市)『こまちの旅』

学校図書館訪問で見えてきた課題「情報センター」としての在り方

今年度から本格的に実施している学校図書館活性化支援で、11月現在、24小・中学校図書館を訪問しました。どの学校図書館も、人気シリーズや話題の本を充実させたり、時節に応じたテーマ展示や多彩なポップを使って本を紹介したりすることで、「読書センター」としての学校図書館は充実しています。一方、どの学校図書館にも個別の課題や悩みはありますが、共通して言えるのは、「情報センター」としての活用です。「授業で活用する場面がない(分からない)」「調べ学習に必要な(使える)資料が十分でない」「使える資料について相談する人もいないし時間もない」等が課題となりました。

今後は、その課題への支援について検討していきますが、学校や市町村教育委員会においても、学校図書館活用のステップアップを話題にしてみてください。



平沢小学校図書館の調べ学習の掲示

保育を学ぶ学生たちが聖園祭で読み聞かせ

10月22日(土)、聖園学園短期大学で聖園祭が開催され、地域の親子が訪れ、様々な子ども向けのイベントを楽しみました。



大型絵本の読み聞かせ

図書館では、二人一組になった図書委員が、「はらぺこあおむし」などの大型絵本や紙芝居の読み聞かせを行いました。保育士を目指す学生たちは、この日のために選書した絵本だけでなく、子どもたちが書架の中から選んだ本を読んだり、お気に入りの本を何度も読んだりするなど、子どもたちのリクエストに応じていました。

秋田県教育庁生涯学習課
社会教育・読書推進班



URL <http://www.pref.akita.lg.jp/syogaku/>